

最近の高速道路関係の状況

高速道路の料金施策の経緯

料金割引

民営化

コスト縮減等で会社割引をスタート
(深夜3割引 (H16.11~) 通勤5割引 (H17.1~))

利便増進事業 (国が3兆円の債務を承継)

H20.10~ 深夜5割引等の拡充
(緊急総合対策: 10年間)

H21.3.28~ 休日1000円スタート
(生活対策: 2年間 (H23.3迄))

政権交代

見直し

H22.4.9 上限制を中心とする
料金割引案を発表 (廃案)

見直し

H23.2.16 新たな料金割引を発表
休日1,000円+平日2,000円

無料化実験

(H15 新直轄事業方式 (無料) の導入)

H22.6.28~ 無料化実験スタート [H22予算: 1,000億円]
実験延長1,625km (20%)

H23.2.9 H23実験計画案を策定 [H23予算: 1,200億円]
全日全車 +約330km
夜間大型 約1,500km

H23.3.11 東北地方太平洋沖地震

現在の割引の当面継続

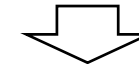
- ① 休日1,000円、時間帯割引は当面継続
- ② 新たな割引 (平日2,000円) は追加しない



- ① 休日1,000円は廃止
- ② 新たな割引 (平日2,000円) は導入しない

現在の無料化実験区間の当面継続

- ① 現在の無料化実験区間 (1,652km) は当面継続
- ② 新たな無料化実験区間 (追加330km+夜間大型) は追加しない

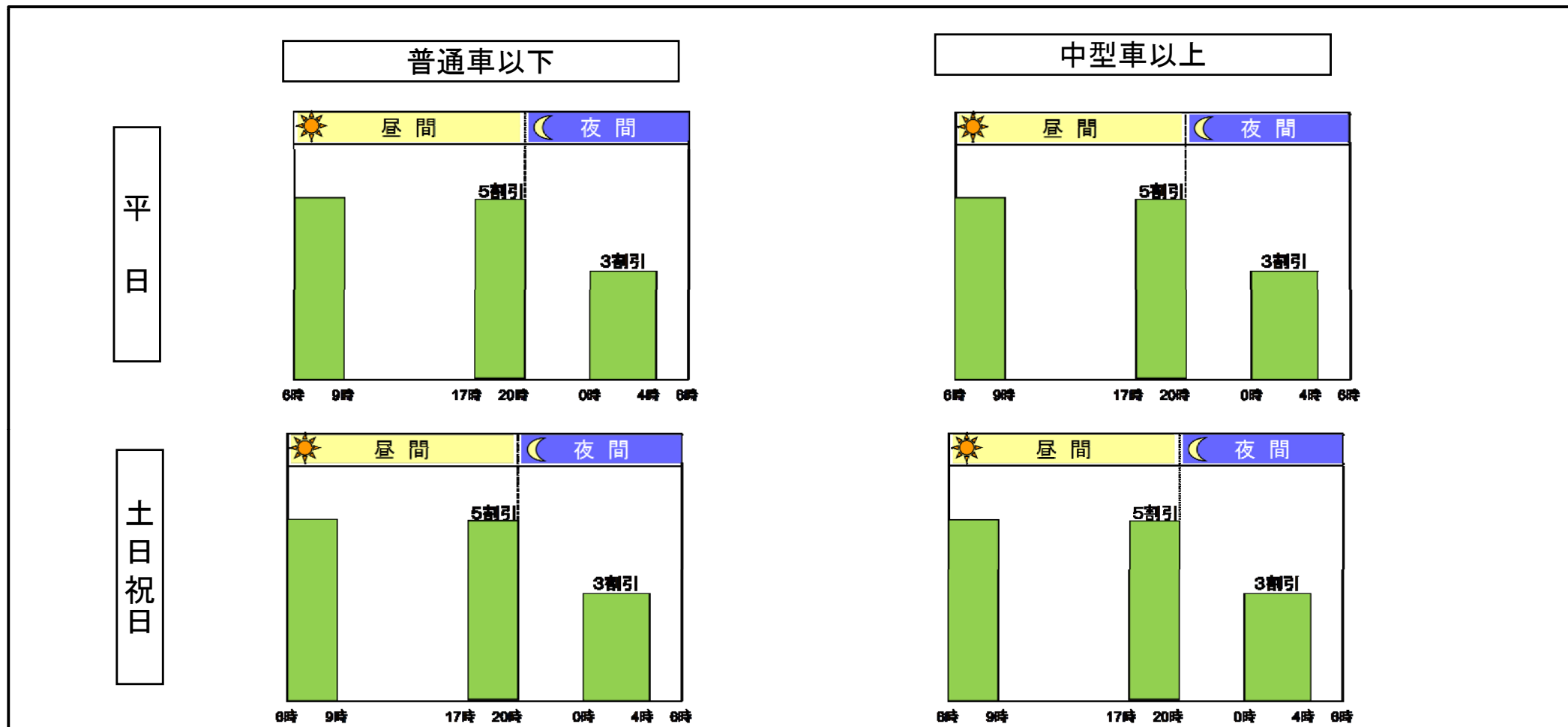


一時凍結

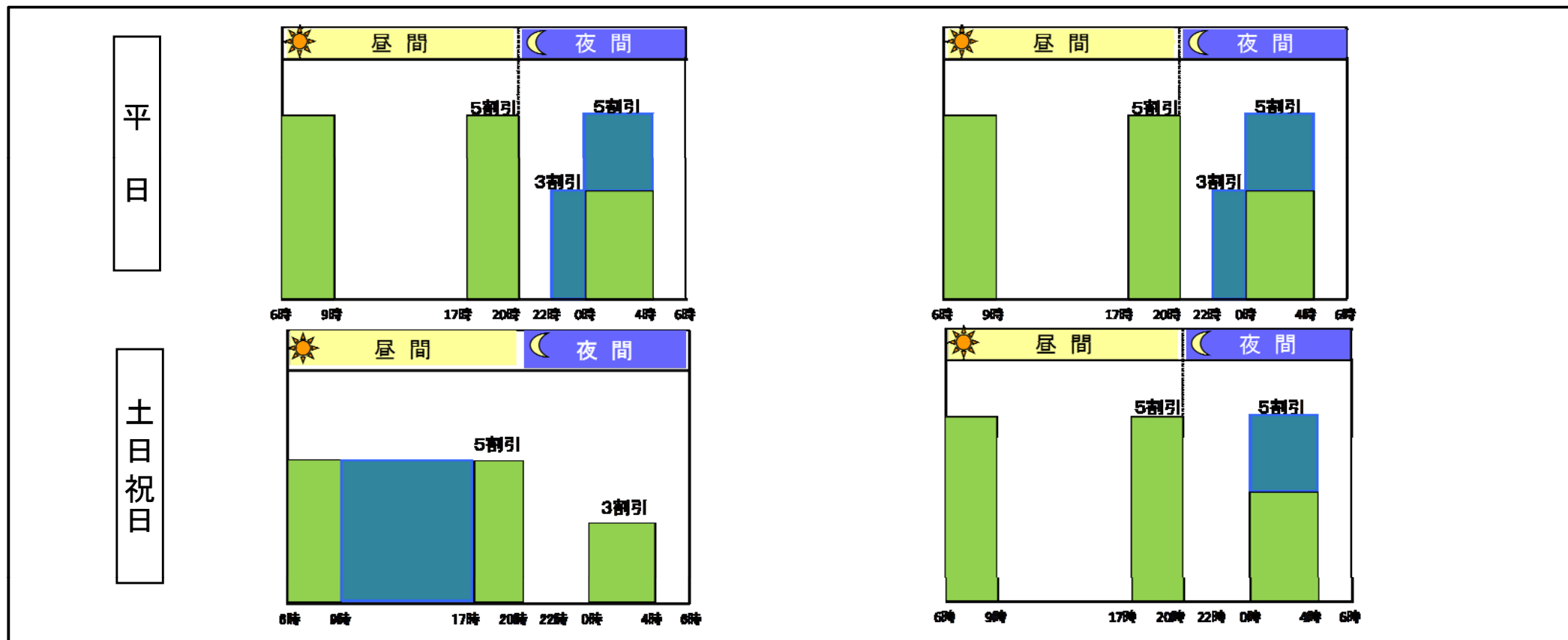
H23.5.2 補正予算成立

※財源確保法の成立

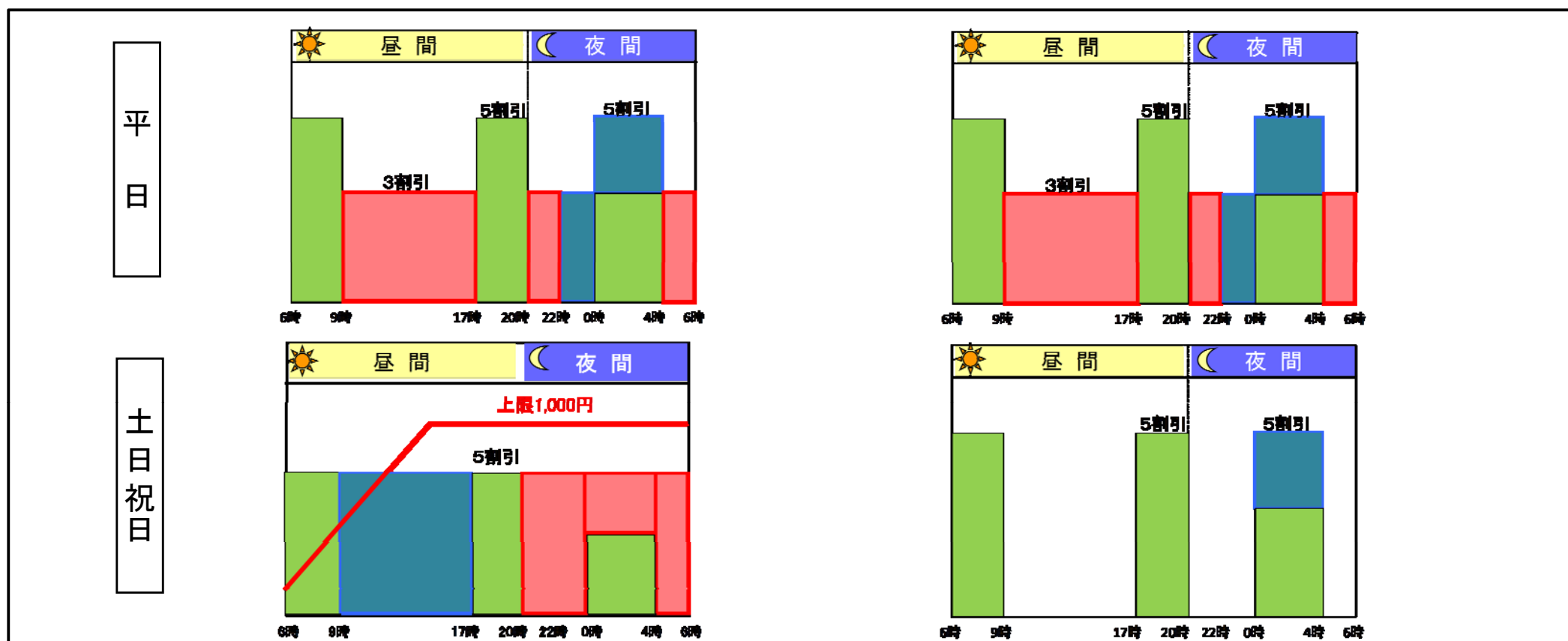
① 民営化の際のコスト削減による割引



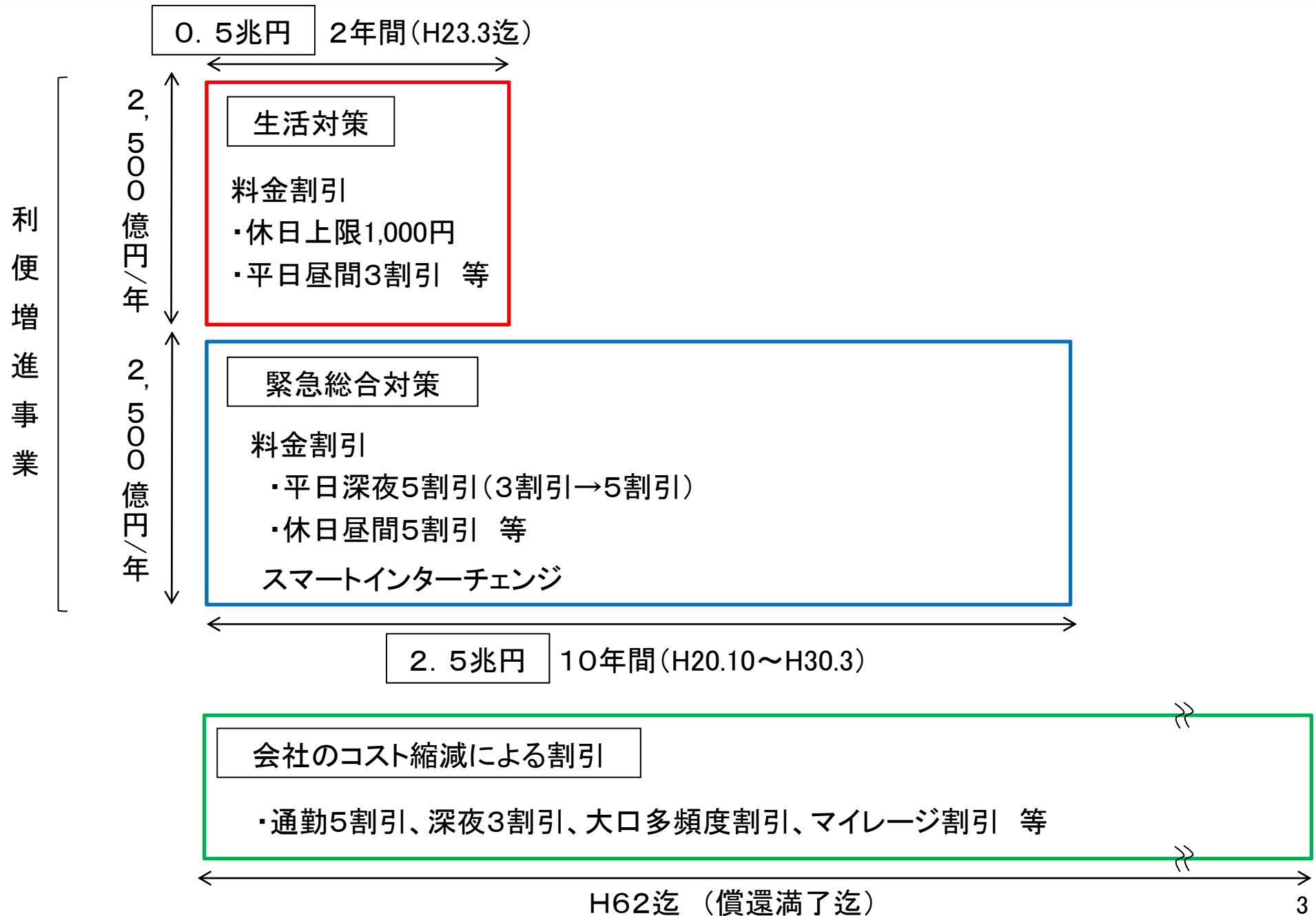
② 利便増進事業: 緊急総合対策2. 5兆円 (H20.10~H30.3)



③ 利便増進事業: 生活対策 0. 5兆円 (H21.3~H23.3)



利便増進事業の当初計画



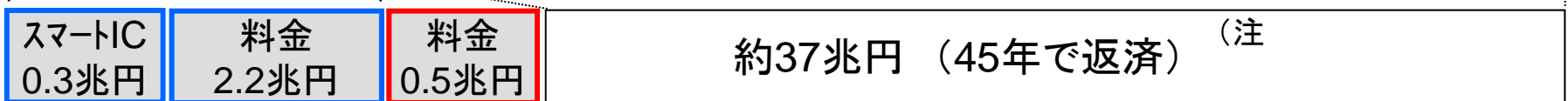
利便増進事業の仕組み

- ① 料金割引、スマートIC整備のため、機構債務を国が承継。承継した債務は国費により返済
- ② 残りの軽くなった債務は、引下げされた料金で、承継前と同じ45年間で返済

機構

債務 約40兆円 (45年で返済)

H19.12 政府与党合意 H20.10 生活対策



承継

国

国債整理基金

一般会計

国費

H20:1,386億円(当初)
5,000億円(補正)
H21:2,045億円(当初)
...

貸付料

高速会社

料金割引

料金収入

H20

H21

H22

...

...

高速道路の新たな料金割引について(平成23年2月16日)

NEXCOの料金割引について

生活交通(普通車)

		現 行	新 た な 割 引※1
上限料金	土日祝日	1,000円 [ETC] (H23.3迄)	1,000円 [ETC]
	平日	×	2,000円 [現金車を含む]※2
時間帯割引等 (通勤・深夜5割引、 平日昼間3割引等)		○	○※3

※1 当面、3年程度

※2 上限制は、軽自動車は現金車も含め1,000円、エコカー(免税対象車)も1,000円

※3 マイレージ割引は、平日2,000円等の導入による影響を踏まえ、見直しを検討する

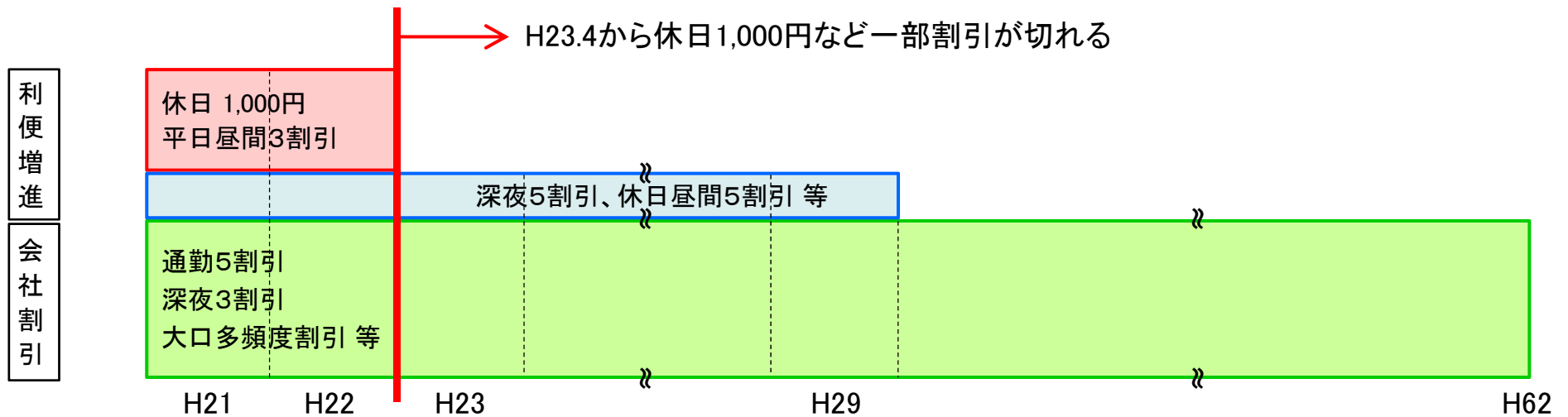
物流(中型車以上)

	現 行	新 た な 割 引※1
上限料金	×	×
時間帯割引 (通勤・深夜5割引、 平日昼間3割引等)	○	○
大口多頻度割引	○	○

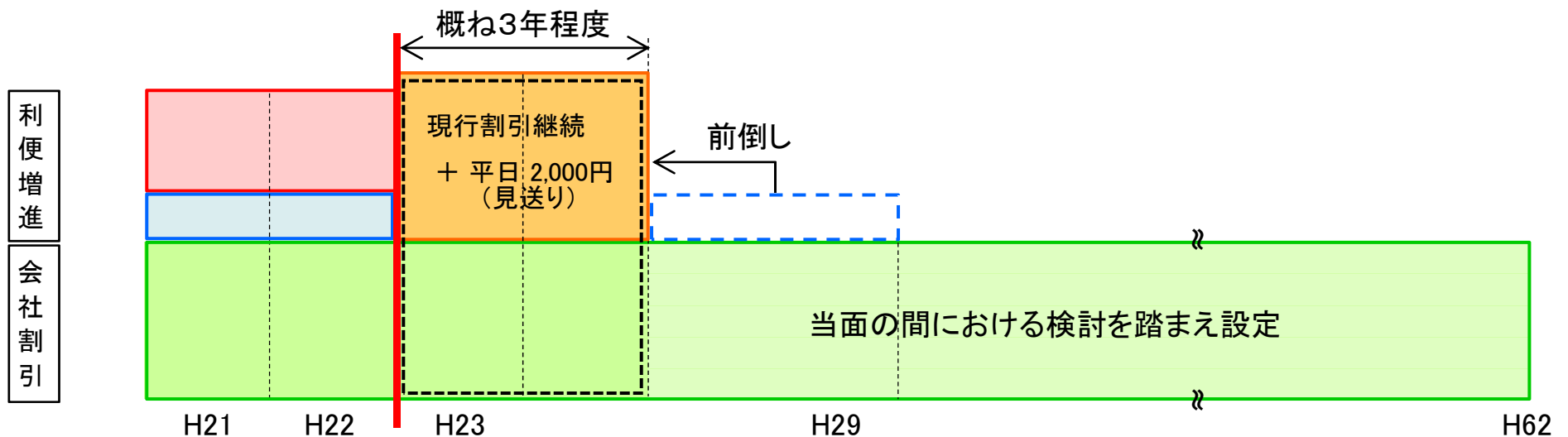
※1 当面、3年程度

料金割引の見直しと利便増進計画 [NEXCOの例]

① 現行の料金割引






② 新たな料金割引 → 平日2,000円は見送り

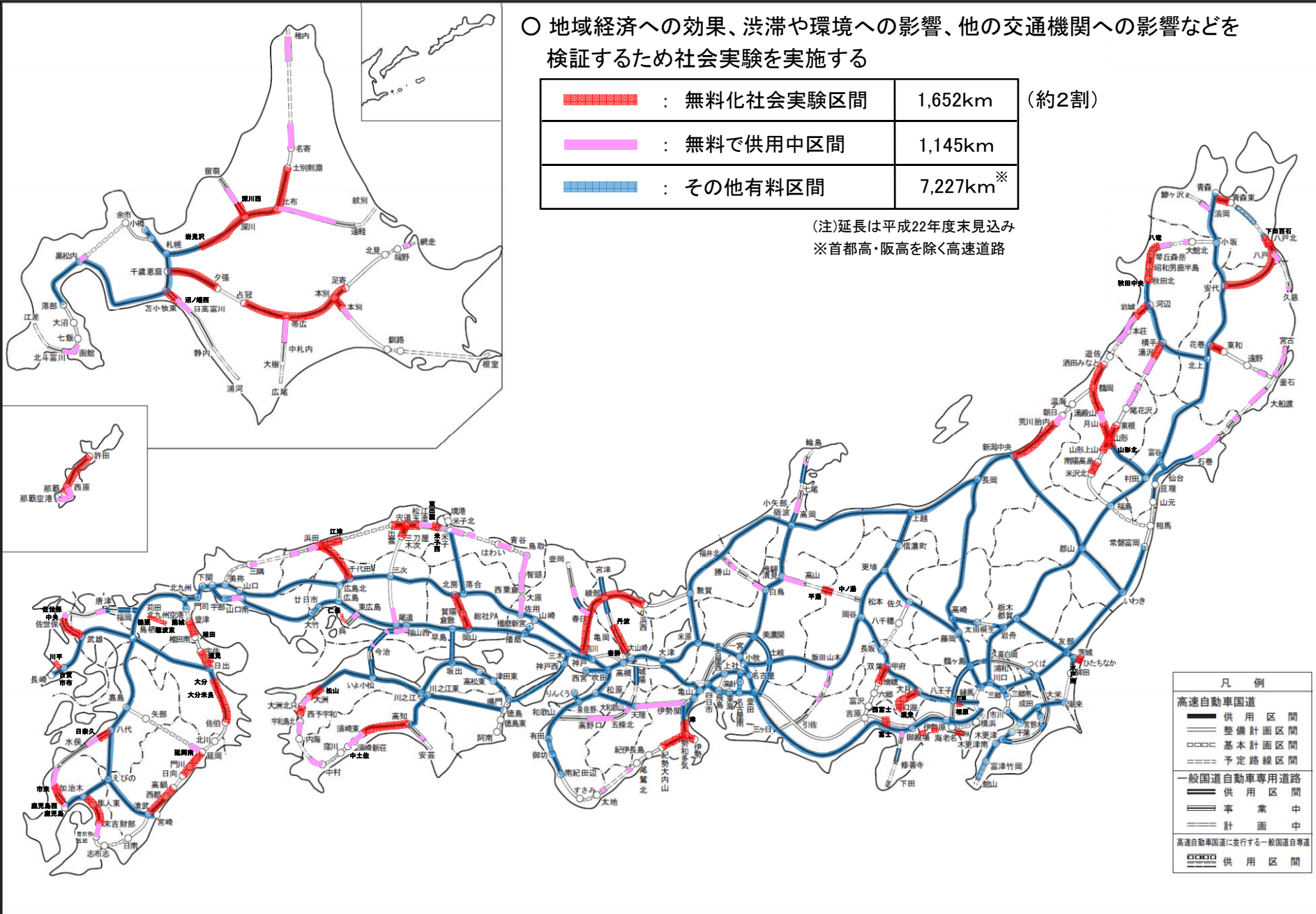


平成22年度 高速道路無料化社会実験 対象区間












○ 地域経済への効果、渋滞や環境への影響、他の交通機関への影響などを検証するため社会実験を実施する

	: 無料化社会実験区間	1,652km	(約2割)
	: 無料で供用中区間	1,145km	
	: その他有料区間	7,227km [※]	

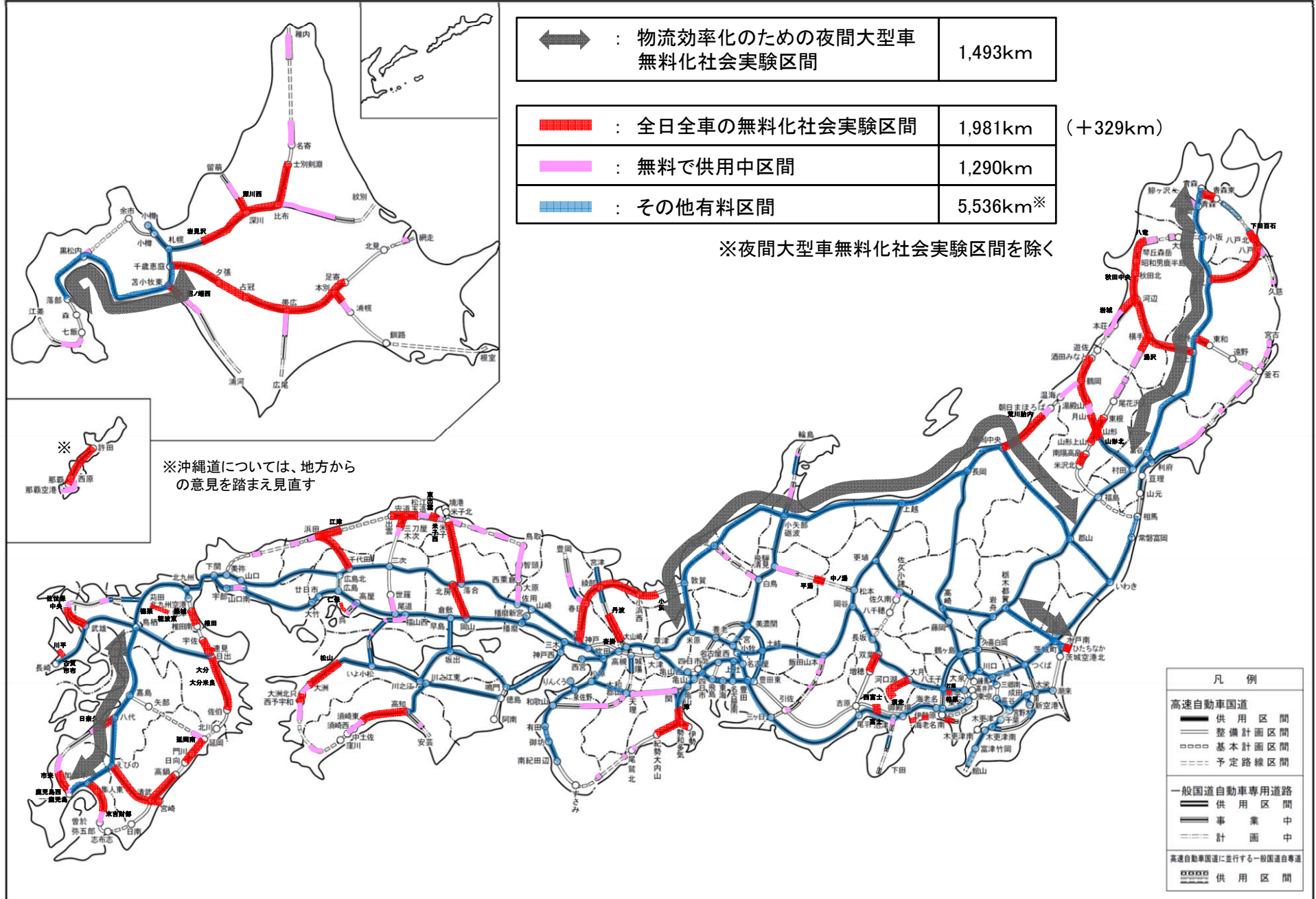
(注)延長は平成22年度末見込み
 ※首都高・阪高を除く高速道路



凡例

	高速自動車国道
	供用区間
	整備計画区間
	基本計画区間
	予定路線区間
	一般国道自動車専用道路
	供用区間
	事業中
	計画中
	高速自動車国道に並行する一般国道自動車専用道路
	供用区間

平成23年度 高速道路無料化社会実験計画(案)

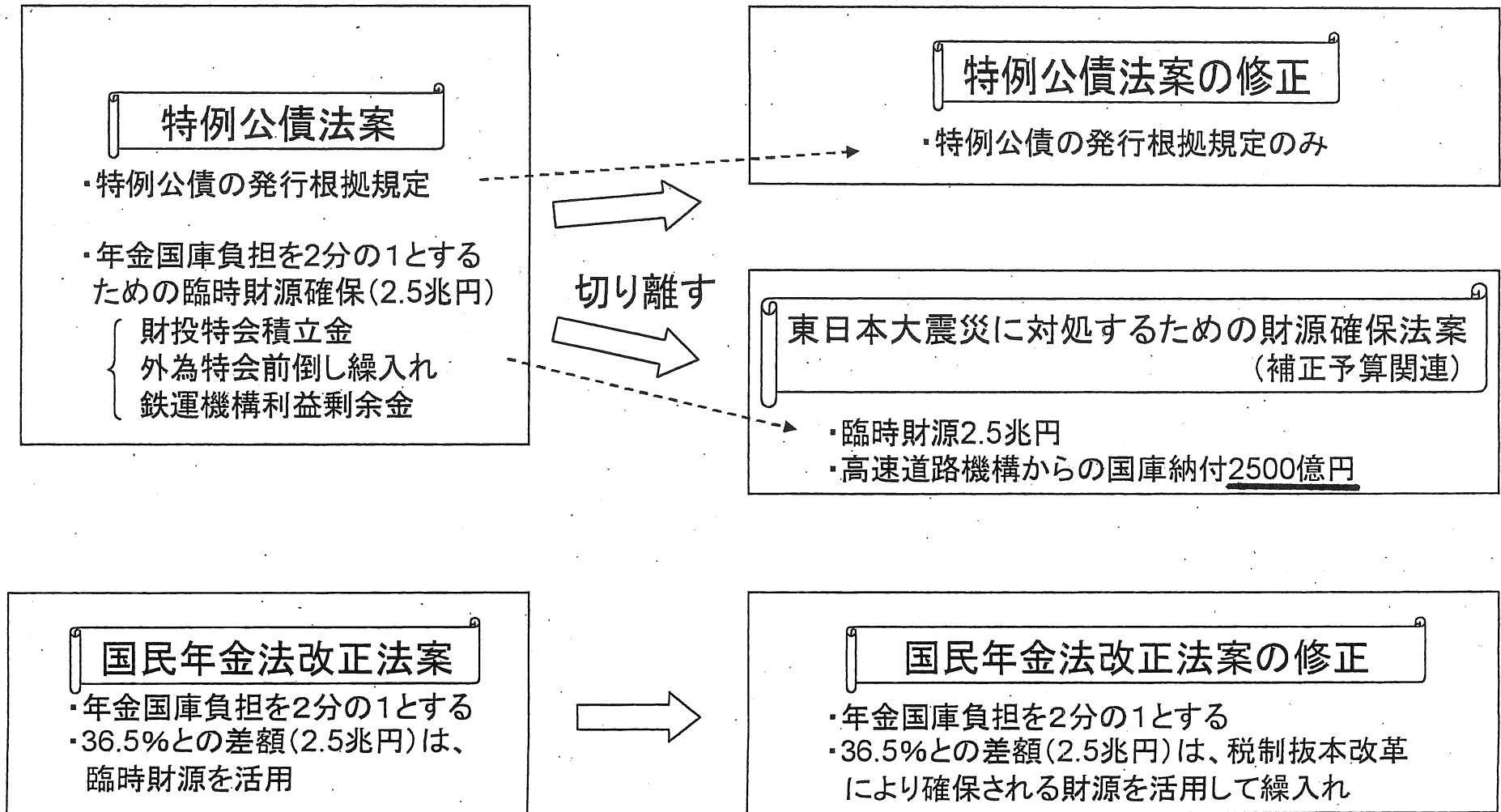


23年度補正予算の財政需要と財源

(単位:億円)

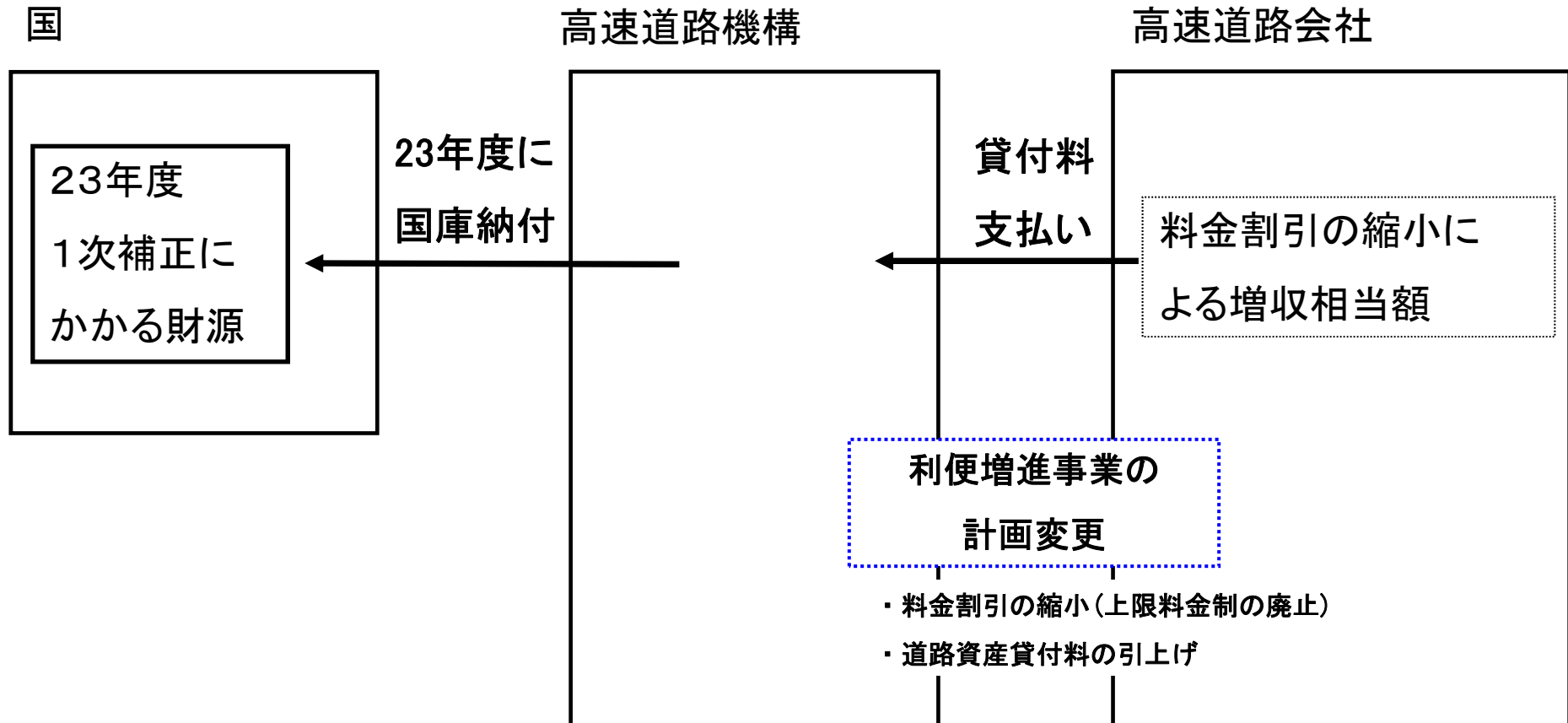
財政需要	財源
災害救助等関係経費 〔仮設住宅等の災害救助費、災害援護貸付、生活福祉資金貸付、災害弔慰金等〕 災害廃棄物処理事業費 災害対応公共事業関係費 〔道路、港湾、下水道、住宅、農地等〕 施設費災害復旧費等 〔学校施設、社会福祉施設等〕 災害関連融資関係経費 地方交付税交付金(特別交付税) その他東日本大震災関係経費 〔緊急雇用支援、自衛隊活動費、医療保険減免等〕	子ども手当上積みの見直し 高速道路無料化社会実験の一時凍結 高速道路料金割引(利便増進事業)の見直し 年金臨時財源の活用 周辺地域整備資金(エネ特)の活用 ODA関連予算の一部縮減 国会議員歳費の削減 公共事業直轄負担金 経済予備費による調整
4,829 3,519 12,019 4,160 6,407 1,200 8,018 <hr/> 合　　計　　40,153	2,083 1,000 2,500 24,897 500 501 22 551 8,100 <hr/> 合　　計　　40,153

特例公債法案と補正予算の財源確保に係る法的手当て



高速道路料金割引(利便増進事業)の見直しによる補正財源確保(2500億円)について

「東日本大震災に対処するために必要な財源の確保を図るための特別措置に関する法律案」第5条等において規定。

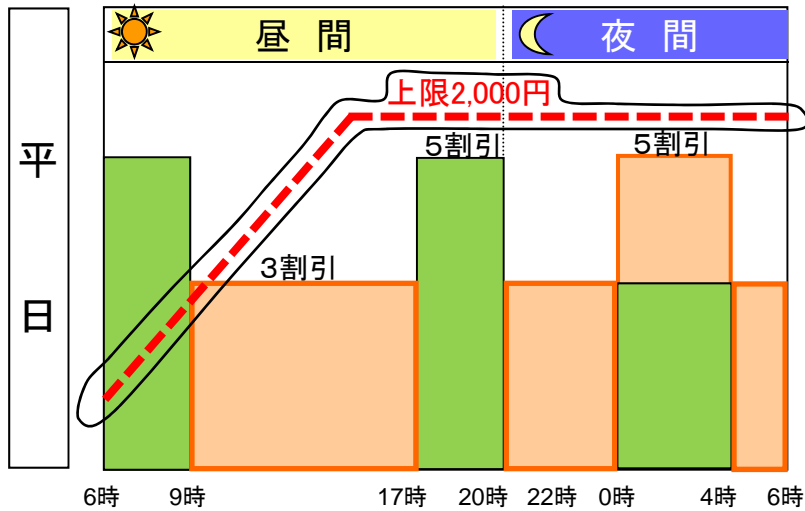


(注) 高速道路機構の資金繰りのため、国は、政府保証による支援を行う。

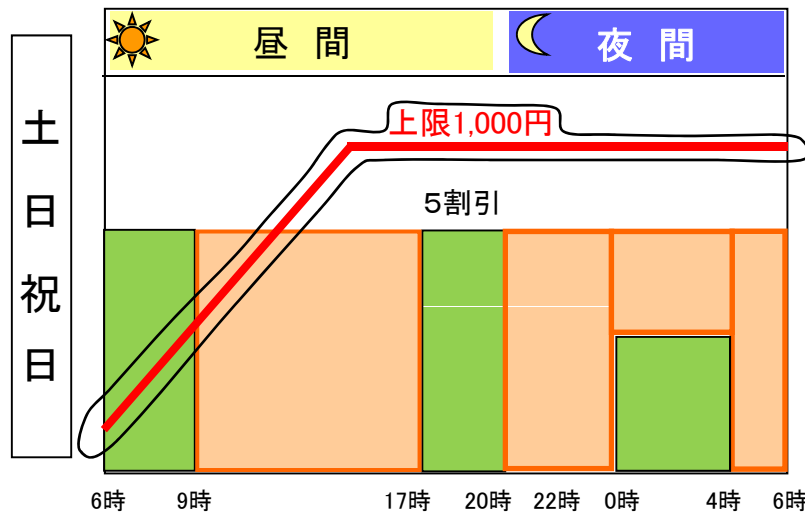
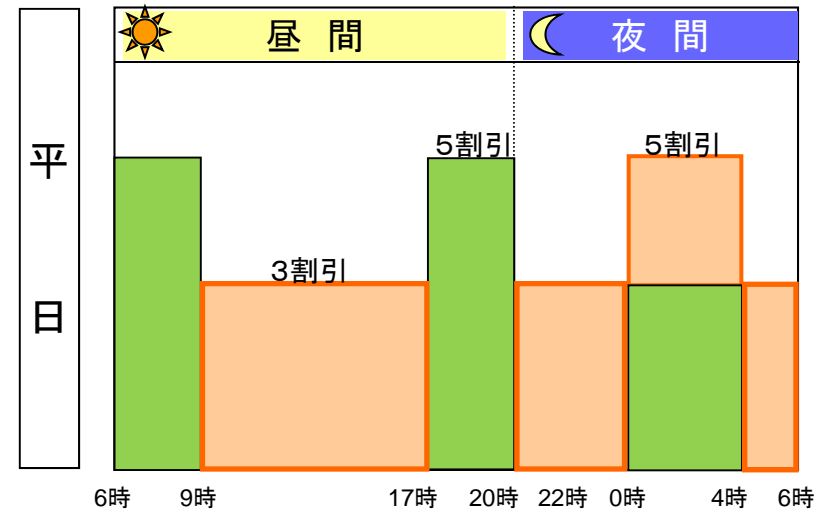
現行の料金割引と財源 (NEXCO地方部の例)

普通車以下

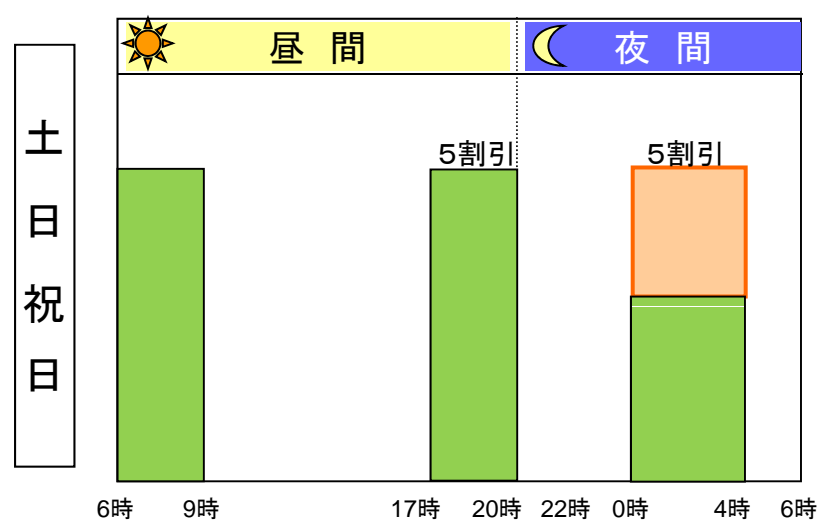
中型車以上



導入せず



廃止



■ : 既存の会社割引

■ : 利便増進事業

休日の料金例（普通車、昼間利用の場合）

区間		現 在 (休日1000円)	上限料金廃止 (休日5割引※)	(参考) 休日5割引※を 廃止した場合 (割引なし)
N E X C O	大泉IC～湯沢IC	1,850円	2,500円	4,600円
	東京IC～浜松IC	1,750円	2,850円	5,350円
	岡山IC～鹿児島IC	1,000円	7,150円	14,300円
	吹田IC～長野IC	1,850円	4,750円	9,050円
	名古屋西IC～広島IC	2,500円	5,200円	9,750円
本 四	A 神戸淡路鳴門自動車道 (神戸西IC～鳴門IC)	1,000円	2,725円	5,450円
	D 瀬戸中央自動車道 (早島IC～坂出IC)	1,000円	2,050円	4,100円
	E 西瀬戸自動車道 (西瀬戸尾道IC～今治IC)	1,000円	2,350円	4,700円

※大都市部(首都圏、阪神圏)は3割引 13